音楽科 提案授業実践報告

1. 学年と題材　　２ 年「ウクレレ演奏の楽しさを追究しよう～コード進行をつくって歌おう」

2. 題材について

本題材は、第１学年から始めたウクレレの学習をもとに、自分が選んだ曲でコード弾きの練習をしたり、コード進行をつくって合奏したり、それに合わせた旋律をつくったりする活動を通して、ウクレレを「演奏できる楽器」として活用できるようになることをねらいとしている。

本校でウクレレを導入した経緯は以下のとおりである。

本校のこれまでの研究成果により、ヴァイオリン、三味線、ペグ三線の活用の授業は定着している。一方で、ギターは中学校器楽で扱う楽器であるにもかかわらず、全員が活用しきれない状態であった。それは、楽器が高価で一人一台の確保が困難なこと、弦を同時に複数個所押さえてコード弾きをすることに難しさがあり、特にＦコードなどのバレーコードで挫折する場合が多いことが原因と筆者は考えた。そこで、注目したのがウクレレである。

ウクレレはコロナ禍で在宅時間が増えた昨年の一時期、演奏や弾き方講座の動画が多く配信され、一部ではブームになってきていた。現在、ウクレレを使った授業や活動は、インターネットで「ウクレレ授業」のキーワードで検索すると小学校、中学校、高等学校での実践が散見できる。やはり、コロナ禍の影響で昨年から増えてきていると予想できる 。

ウクレレは、ギターに比べて気軽に購入できる価格であること、長さが 23 インチ（コンサートタイプの場合）と抱きかかえられる大きさであること、指が痛くなりにくいナイロン弦４本で、４弦から順にＧ・Ｃ・Ｅ・Ａにチューニングし、開放弦を弾くだけでも C6 のコードが出せる、など、学習者の身近な楽器となる可能性が高いと筆者は考えた。また、ギターに比べ、C、F、Ｇの主要三和音のコードが押さえやすく、昨年度の実践から、初心者でも短時間でこの３コードを演奏できるようになることが明らかになった。特に、これまで楽器演奏を経験してこなかった学習者からウクレレは好意的に受け入れられ、技能的なハードルが低いと捉えられていることがわかった。

ウクレレはメロディ奏もできるが、コード弾きが中心であり、これまで実感を伴った理解が難しかった和音（コード）の概念にも実技を伴って親しむことができ、合奏はもとより、弾き語りや創作活動も可能となることが期待できると判断した。

本題材では、第１学年での学習を踏まえて、C、F、Ｇ７の主要三和音に加え、in C で使うコードも使ってコード進行をつくり、学習班で共有して合奏をつくり、さらにコード進行に合わせて旋律をつくる活動を通して、ウクレレのコード弾きに慣れ、音楽を楽しむツールとしてウクレレに親しんでいけるようになることをねらいとしている。

コード進行をつくる活動は、Ｃ、Ｆ、Ｇ７を中心にＤｍ、Ｅｍ、Ａｍ等をつかって並べ方やリズムを工夫しながら弾いて確かめる探究的な活動が期待できる。「自分の好きなコード進行をつくる」というテーマが主体的な学びを引き出せると考えた。また、自分がつくったコード進行を学習班で共有し、弾き合い、それらをつないだり、組み合わせたりして合奏をつくる活動は、弾きながらアイディアを話し合い進めていく対話的な学びの場として設定した。さらに、そのコード進行に載せて即興的に鼻歌やスキャットで旋律をつくる活動は、コード進行の響きを聴きながら創造的な発想を働かせる

音楽活動である。創作活動は、つくり上げた作品の良し悪しではなく、活動のプロセスを重視する。コード進行をつくる際に、いろいろなコードのつなぎ方を、弾いて試しながら探す活動にこだわりをもって納得がいくまで取り組んでいるかどうかを観察と「授業の振り返り」の記述から見取る。

(1)本題材の目標

①ウクレレでいろいろなコードの運指を調べ、滑らかにコード進行を演奏し、自分なりのコード進行をつくって仲間と合わせて演奏したり、コード進行に合わせてメロディをつくったりできる技能を身に付ける（知識・技能)。

②C・F・G7 の３コードを骨格にして、その他のコードも織り交ぜながら工夫して自分なりのコード進行をつくり、仲間と話し合いながら、これまでの学習内容をもとに合奏をつくろうとする（思考・判断・表現)。

③成果と課題を意識しながら、活動の目標を持ち、音を出したり考えたりする時間を豊かにもって、仲間の音や意見に耳を傾けながら活動しようとする（主体的に学習に取り組む態度)。

(2)本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ダイヤグラムをもとにコードの運指を確認し、滑らかにコード進行を演奏し、自分でつくったコード進行と学習班のメンバーのコード進行を演奏し、合奏する技能を身に付けている。	・いろいろなコードの特徴を感じ取り、工夫してコード進行をつくり、学習班のメンバーと意見交換しながら合奏をつくり、コード進行に合わせてメロディを即興的につくろうとする	・それぞれのコードの特徴に興味・関心をもち、いろいろなコード進行を試しながら自分のコード進行を決め、学習班の活動では自分の考えを出したりメンバーの意見を聞いたりして合奏や旋律づくりを楽しむ。

4　指導と評価の計画（題材）

時	◆ねらい　〇学習内容　・学習活動	知・技	思	態
		（　　）内は評価方法		
1	◆in C で使うコードを中心に、自分の好きなコード進行をつくろう。			
	〇1 年次のウクレレ活動の復習をする ・チューニングを確認する。 C、F、G_7のコード練習、「ジングルベル」「ハッピーバースデー」のコード進行を弾く練習をする。 〇「栄光の架橋」のサビ部分（in C で）のコード進行の練習をする。 ・ダイヤグラムを見ながら、コードの運指を確認して練習する。 〇自分の好きなコード進行をつくる。 ・in C で使うコードを知る。 ・創作の手順を知る。 （好きなコード進行をつくる→学習班でお互いの作品を弾	技 （観察） 知　技 （観察） 知 知　技 （観察）		

	き合う→合奏をつくる） ・各自のコード進行の創作にとりかかる。 ・授業の振り返りを書く。		思 （観察）	態 （記述内容）
2 本時	◆各自がつくったコード進行を学習班で共有し、合奏をつくってみよう ○主要３コードのコード進行を練習する。 ・C,F,G_7と新たにGの運指を練習する。 ○その他のコードの運指を確認し、コード進行づくりの続きをする。 ・ひとりひとり好きなコード進行をつくり、ロイロ・ノートの提出箱に提出する。 ・全員のコード進行カードを共有する。 ○学習班でお互いのコード進行を共有し、合奏づくりの構想を練る。 ・学習班で合奏をつくることを確認する。 つくり方は、「つなげる」「かさねる」「一人ずつ」「全員で」などを組み合わせる。 ・学習班に分かれて、お互いのコード進行を演奏し合い、合奏の構想を練る。 ○授業の振り返りを書く	技 （観察）	思 （観察） 思 （観察） 思 （観察）	態 （記述）
3	◆学習班でつくったコード進行の合奏を聴き合って工夫点を参考にし合おう。 ・学習班で合奏をつくり、完成させる。 ・お互いの合奏を聴き合い、工夫されている点を確認し合う。 ・授業の振り返りをする。		思 （観察）	態 （記述）
4 5	◆学習班でつくったコード進行の合奏にメロディをつくって歌をつくろう。 ○演奏したコード進行に合わせて、ハミング、スキャットなどでメロディをつくる。 ・学習班でつくった合奏のコード進行に合わせてハミング、スキャットでいろいろなメロディをためしてつくる。 ○コード進行に合わせたメロディをつくり、メロディとコード進行の関係を実感する。 ・コード進行を何度も聴きながら、思い描くメロディを口ずさむ。 ・コード進行の流れからメロディをイメージすることによって、コード進行の音楽からメロディが生まれ出る感覚を味わう。 ・授業の振り返りをする。	技 （観察）	思 （観察）	態 （記述）

5. 生徒の学習の実際

（1）既習内容、C、F、G_7のコード弾きの復習では、個人練習の時間を設定したところ、５分ほどで思い出して演奏していた。

（2）コード進行の創作（個人活動）では、コードの並べ方をいろいろ試しながらつくっていた。最後が「C」になる（終止）コード進行が多い傾向があった。

（3）学習班でのコード進行の共有場面では、お互いにつくったコード進行を見せ合いながら弾いて確かめていた。

（4）学習班で合奏をつくる活動では、つなぐ、組み合わせる、リトルネッロ形式を参考にしたSolo、Tutti を並べる形式にする、などの工夫点を出し合い、実際に音を出して確かめながらつくっていた。

（5）授業の振り返りには、「成果・課題・展望・感想」を記述するように指示したが、詳しく記述する生徒と記述が足りない生徒に分かれている。じっくりと振り返る時間を確保したい。

6. 生徒の学習の考察

毎授業の「振り返り」の記述には、「成果、課題、展望、感想」を書くように指示した。提出された「振り返り」の記述を、「成果」「課題」「展望」「感想」の４観点で分類し、その内容を精査することによって、生徒の活動への取り組み方、振り返る力を検討することにした。提出先は、ロイロ・ノートと Moodle で、授業後すぐに書いて提出する場合はロイロ・ノート、家庭で書いて提出する場合は Moodle としているが、Moodle に提出された記述の方が詳しい書きぶりの傾向が見られる。「振り返り」の行為は、すぐに振り返るよりも時間をおいて落ち着いて振り返る方が深く考えながら記述でき、家庭で学習を振り返って書くことが望ましいと考える。

コード進行を学習班で共有する活動は、予想以上に生徒の学びに刺激を与えたようである。共有し、対話する活動が充実するために、各自で考えつくる時間を設定して考えや作品をもたせた後に、他者と共有するというプロセスは、深い学びのために重要であることが改めてわかった。

7. 成果と課題

(1)C・F・G7 を中心にコード進行をつくるという活動は、創作が難しそうだと感じていた生徒にも負荷感なく楽しく意欲的に取り組めることがわかった。

(2)学習班での活動では、自分がつくったコード進行をメンバーに演奏してもらったり、メンバーのコード進行を演奏したりといった対話的活動が学習の刺激となり、他の考えを知ることで新たなアイディアに気づき、音楽の見方・考え方が広げられることがわかった。

(3)各自のコード進行をつくる活動を充実させてから共有する活動を設定することが深い学びにつなげられることがわかった。

(4)コードネーム表記ではなく、自分で音の組み合わせを探して書いたダイヤグラムでコードを表現する生徒がいた。既成のコードネームではなく、音の重なりを聴きながら探していった活動として主体的で創造的な発想ととらえることができる。

本題材は、創作活動を通してウクレレのコード弾きに慣れることをねらっている。創作活動は、その活動をしている間、コードを押さえ演奏する行為を繰り返すことになり、知らず知らずのうちに何度も練習していることとなり、書かれている練習曲をなぞる活動よりも自発的で創造的であると判断した。C、F、G、G7 のコードを中心に並べ方、ストローク数、テンポの工夫でいろいろなコード進行、合奏が考えられる。実際に、生徒は互いの成果物を検証し合うことによって発見があったようだ。

今後、さらに振り返りの記述の分析を進め、「振り返る力」を検証していく。